

観察 調査活動

自然観察（植物・動物・昆虫）

33

1 活動のねらい

花山のフィールドに植生・生息する植物・動物・昆虫・野鳥等の観察やスケッチを通して自然の仕組みを知り、自然とのかかわりを考え、自然を大切にする心情を培います。

2 育てたい能力

B2 自然への関心 B4 思いやり A2 積極性

※Aは心理的・社会的能力 Bは徳育的能力 Cは身体的能力 詳細は別紙参照

3 活動場所

・自然の家周辺 ・御駒山 ・あなぐまコース

4 活動時期

通年 ※動植物の観察に適している時期は4月～11月

5 所要時間

2～3時間

6 指導形態

団体の引率者が指導者となって行う活動

7 準備物

【団体・個人で準備するもの】

・筆記用具 ・軍手 ・観察用紙 ・活動に適した服装



【自然の家で貸し出しできるもの】

・コース地図 ・ルーペ ・捕虫網 ・図鑑 ・無線機1台（自然の家と団体との緊急連絡用）
・バインダー ・双眼鏡 ・フィールドスコープ ・顕微鏡 ・メジャー

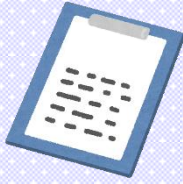
8 活動の手順

（1）事前

- ①自然の家職員と打ち合わせを行い、実地踏査で現地の状況を把握した上で計画を立てます。
- ②安全確保のため、服装や準備物についての事前指導を行います。
- ③必要に応じてグループ編成をしておきます。

(2) 活動

①出発にあたって、自然の家事務室に報告し、用具を借ります。



②人数確認、服装・装備・持ち物の点検、健康状態のチェックをします。



③活動のねらいや注意点を説明します。



マナー ①植物をとったり、木を折ったりしない。
②ごみや弁当の空き箱等は、必ず持ち帰る。
③自然界の生き物を驚かさない配慮をする。
④土や落ち葉をめくったら、必ず元通りにする。

④ねらいに沿って活動し、振り返りまで行います。



⑤自然の家事務室に活動終了の報告をし、借用物品を返却します。

活動の展開例

- ①直接指導タイプ
指導者が先導しながら全コースを解説します。
- ②課題配布タイプ
課題等を配布し、それに基づき観察をします。
- ③自由観察タイプ
グループの話し合いで観察テーマを設定し、観察します。
- ④ポイント指導タイプ
解説が必要なポイントに指導者を配置します。
- ⑤プレートタイプ
観察させたい箇所に「課題」や「観察のポイント」等を前もって配置します。



9 留意点

- ・観察活動では、トータルな自然を観察させるようにしましょう。(例えば、植物、鳥、昆虫等と対象を限定した方法も考えられるが、そのことで他の生き物との関連まで観察が行き届かなくなるため。)
- ・花や鳥の名前にこだわるよりも、どのような形、色、種類がどんな生活をし、どのくらいいたか(あったか)を観察させることに着目しましょう。
- ・観察活動に「手でふれる」「匂いをかいでみる」「静かに聞く」等、五感を使った動きを取り入れましょう。
- ・集中して観察できる時間には限度があるので、変化を持たせましょう。(例：観察→さがす→観察→ネイチャーゲーム→観察等)
- ・時間をゆったりとって、じっくり観察させましょう。
- ・プレートタイプの場合は、活動終了後必ずプレートを回収しましょう。
- ・時間をたっぷりとり、じっくりと観察させましょう。
- ・自然の家に戻ってきてから顕微鏡で観察することができます。
- ・うるし、スズメバチ、マムシ等について、特に注意するよう事前指導を行ってください。

